



平成24年7月11日

各位

上場会社名 旭硝子株式会社  
代表者 代表取締役・社長執行役員 石村 和彦  
(コード番号 5201)  
問合せ先責任者 広報・IR室長 上田 敏裕  
(TEL 03-3218-5603)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成24年2月8日に公表した業績(売上高・営業利益)の予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成24年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
前回発表予想(A)	600,000	60,000
今回修正予想(B)	580,000	47,000
増減額(B-A)	△20,000	△13,000
増減率(%)	△3.3	△21.7
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年12月期第2四半期)	613,674	99,258

平成24年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
前回発表予想(A)	1,250,000	140,000
今回修正予想(B)	1,200,000	100,000
増減額(B-A)	△50,000	△40,000
増減率(%)	△4.0	△28.6
(ご参考)前期実績 (平成23年12月期)	1,214,672	165,663

※経常利益、当期純利益の予想につきましては、現在精査中であります。

### 修正の理由

欧州や中国における景気減速から世界経済の不透明感が増しています。こうした中、欧州地域では建築用ガラスの需要が想定を大きく下回ることが予想されます。また、ソーラー用ガラスについては各国の補助金制度の縮小、競争環境の激化などから事業環境は当初見込みよりもさらに厳しくなっており、今後もその状況が継続する見込みです。

表示デバイス用ガラス基板は、第1四半期に想定を上回る製品価格の下落がありました。また、期後半も景気の回復力が弱いことが予想されるため、期初想定したほどの出荷増が見込めない状況です。さらに、ディスプレイ用特殊ガラスや電子部材等の出荷が景気減速の影響を受けて当初見込みよりも遅延しています。

その結果、第2四半期連結累計期間及び平成24年12月期における売上高及び営業利益の予想は、平成24年2月8日に公表した内容を下回る見通しです。

以上